

利尻島における天然生海岸林の群落学的研究

齋藤新一郎*

A phytosociological study on natural forests along the coastlines of Rishiri Island, Northern Hokkaido

Shin-ichiro SAITO*

まえがき

海岸林の造成技術に関する研究は、北海道立林業試験場道北支場の主要テーマの1つであり、1970年から継続されている。筆者はこれまでに、北海道北部に存在する天然生海岸林の現況を調査し、それらの成立条件を検討して、その成果を林帯造成方法に適用してきた(齋藤1968, 齋藤・伊藤1971, 齋藤・東1971, 齋藤・伊藤・原口1972)。本稿はこうした一連の海岸林調査報告の1つである。

北海道本島北部の天然生海岸林と比較して、利尻島のそれらは多くの点で著しく違うことが、1973年の踏査で明らかとなった。そこで、1974年9月に、この島の天然生海岸林を、林分構成、風衝状態、成立条件、今後の推移、地質・土質との関係、その他の観点から調査・検討した。

この成果は、この島の屋敷林の現況(齋藤ほか1974a)および防風林造成事業の経過(東海林ほか1967)と併せて、この島を含む道北地方の林帯造成、一般造林、環境緑化木の植栽、および天然生海岸林の健全な維持に関する基礎資料の1つを提供するであろう。

なお、本稿の一部を日本林学会北海道支部大会(1974年10月)で発表した(齋藤・小原・豊田1974b)。

利尻島の概況

利尻島は北海道の北端に位置し(北緯 $45^{\circ}10'$ 、東経 $141^{\circ}14'$)、日本海上にあり、最も近い北海道本島の稚内市オネトマナイとは利尻水道(水深100m以内、幅約20km)

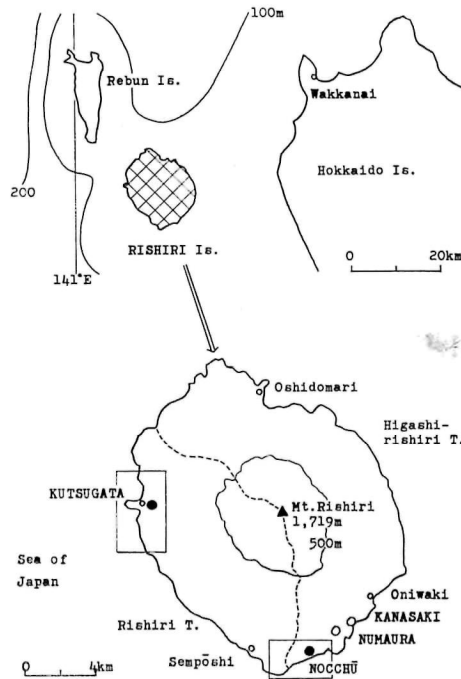


図-1 調査地位置図

Fig. 1. The sites investigated.

* 北海道立林業試験場 Hokkaido Forest Experiment Station, Bibai, Hokkaido, 079-01.

